



加しき

広報

第109号 (特集)

41.3.31 発行

発行所 鹿児島県始良郡
加治木町役場

発行人 曾木隆輝

編集人 中元邦夫

印刷所 吉屋印刷

全ご家庭に、もれなく配布

町民憲章をよめる

わたしたちのまち加治木町は、昭和二十年の二回にわたる大空襲で、市街地中部の二四七、〇〇〇坪(七七八戸)を焼失し、罹災者三、〇四六人を数えるという大きな痛手の中から勇躍立ち上がり新しい町づくりのため、二万町民一丸となつて努力してきました。おかげで加治木町は、めざましい発展をとり、美しい自然の中でりっぱな地方都市としての形を整えつつあります。

このような加治木町を誇りに思ふと同時に、この町に住むわたしたち町民が新しい町にふさわしいりっぱな町民であることを願わずにはいられません。

新年度からわたしたちの町では従来の部落組織を自治会組織に改め、さらに新たな決意のもとに、明るい平和な町づくりをすすめています。わたしたちは、お互いにゆるし合い、協力し合う精神を養ない、りっぱな市民性を育て、

加治木町に対する誇りと愛情をもって明るく、豊かな、住みよい町づくりをすすめていきたいものです。

このような意味から、わたしたちの心の「道しるべ」として制定されたのがこの町民憲章です。この憲章は前文と、五つの項目からなる本文からできています。前文に町の歴史性と加治木町民であるという誇りをもってこの憲章を守りますという自覚と決意を表明し、本文は守りたいことを具体的に定め、一項目ごとに生活目標として実践項目と具体的目標を掲げておられます。町民憲章は法律ではありません。わたしたちの「合いことば」です。押しつけてでなく、

町民憲章制定に当つて

町長 曾木隆輝

国家の興隆や民族の発展を歴史的に考えますと、いずれも国民大衆の意欲、住民のたゆまぬ努力がその基礎をなしています。いいかえれば、人間そのものが社会を作っているのだから、その一個一個の人間がりっぱな自己とか家庭づくり、村づくりの意欲と努力をなさない限り理想の具現は望むべくもありません。

おたがいが、いがみ合い、のりしり合い、争い合っているのは平和も発展もない。今日、私たちは可能な限りの力

を尽くして教育の徹底と向上をはかりつつあります。それは単に学校教育だけではない。家庭、社会のそれも同様である。

町教育委員会は町民が常に座右の銘として、あるいは信条としてかかげて、明るい人間生活をおくるための憲章を制定することを企画して、まず専門の知識経験者に依頼して、案文を作成し、種々検討のうえ、これをまとめてもらいました。町としては、これを原案として町議会にも相談し、満場一致で憲章ができました。

そこでこれを町民の皆さんにお知らせして、これを皆で守って行くようにしたい。わかり切ったことだし、こんなことをこむつかくしく決めないでもないではないかという考え方もあります。

しかし、そのわかり切ったことが実はなかなかいざとなると困難なことではあります。この町に住む者として、何とかして、いやな思いをしたり、また人に迷惑をかけたたりすることなく明るい、豊かな人間づくりができて、町中の人が明朗で元気で助け合っているような理想境にしたいものだと思つてやみません。

みんながすすんで守るところにこの憲章の意義があります。この憲章制定に当っては、町教育委員会で企画して、町内の各階層からなる専門委員会にはかり、案文を作成して慎重に検討を加えていただき、さらに町議会に相談して、満場一致ででき上ったものです。今後部落自治会、地区自治会、学校、婦人会、PTA、青年会、子ども会など町内の各団体では、たえず趣旨の普及徹底をはかり、憲章が完全にみんなのものになるように啓もうしていただき、年間を通じていろいろの集会などでは、つとめて「町民憲章」の朗読によって開会されるようにおすすめます。

この広報紙は、町民憲章をよく理解していただくために特集号として発行いたしました。各ご家庭職場とも目につく見やすい場所にはつけてください。

役場に

自衛消防隊生まる

町役場に自衛消防隊ができました。隊長総務課長以下二十二名で役場庁舎の消火に当るほか、町内の火災発生に際しては応援にかけつけます。

このほど隊員には、ま新しいハッピが渡されましたが、若い隊員ぞろいであつて、その責任の重大さを痛感するとともに、大いに張り切って訓練にも熱を入れていきます。

加 治 木 町 民 憲 章

わが加治木町は、教育、文化、経済のうえにかがやかしい歴史をもっています。わたしたち加治木町民は、この先人の残したうるわしい伝統に新しいいぶきを与え、郷土愛の精神にもえて、力強く前進し、より平和な住みよい町をきづくため、ここに町民憲章を定めます。

昭 和 4 1 年 度

町 民 生 活 目 標

実 践 項 目  具 体 的 な 目 標

一 わたしたち 加治木町民は
心を豊かにして 平和な町をつくります。

- ゆるし合い協力し合っていきましょう。
- 人を批判する前に自己反省しましょう。
- 団体をみんなで育てましょう。
- 自主、責任、連帯の市民的性格をのばしましょう。

お互い物言を善意に解釈し、話し合う心を養おう。
他人の悪口やデマ宣伝はやめよう。
みんなで話し合い、みんなできめ、きまつたことはみんなで守ろう。
自主性の確立とともに社会の一員であることを自覚し、協調発展する態度を養おう。

一 わたしたち 加治木町民は
きまりを守って 明るい町をつくります。

- 社会秩序を維持し、公衆道徳高揚につとめましょう。
- 明るく正しい選挙をしましょう。
- 税金は納期限内に納めましょう。
- 交通安全運動をすすめましょう。

各種集会の時間や約束を守り、人や社会に迷惑をかけないようにしましょう。
お互の良識で追放しよう選挙違反。
納税組合には全戸加入完納を。
飲酒運転はやめて、歩行を正確に。

一 わたしたち 加治木町民は
力をあわせて 清潔な町をつくります。

- 環境の浄化につとめましょう。
- 三ない運動をすすめましょう。
- 花いっぱい運動をすすめましょう。
- 文化財や公共物の愛護につとめましょう。

環境衛生や各種の健全なムードをつくりましょう。
公共の場や集会の後始末をしっかりと。
家庭や職場に花をみんなで育てましょう。
史跡名勝や公共の植木花園をみんなで育てよう。

一 わたしたち 加治木町民は
元気で働き 豊かな町をつくります。

- 健康な身体をつくりましょう。
- スポーツ活動を高めましょう。
- 家庭生活の合理化につとめましょう。
- 生産、経済団体の活動を高めましょう。

工夫こらした、食生活の改善を、早寝、早起で町民体操を。
部落地域ぐるみで体育レクリエーション大会を。
健全な生活設計のための学習を。
生産、経済団体の連絡協調を図り農村三作運動をすすめましょう。

一 わたしたち 加治木町民は
楽しい家庭をつくり 町のよい子を育てます。

- みんなの力で青少年を健全に育てましょう。
- お互いに理解し合い、家庭を明るくしましょう。
- 各関係機関団体が協力しあいましょう。
- 家庭の日はみんな楽しくすごしましょう。

青少年団体や子ども会を健全に育て、協力する態度を養おう。
家庭で話し合いの場をつくろう。
関係機関の団体が連絡協調し子どもの幸福を守ろう。
例外をつくらず子どもと共に。

交通事故から 子どもを守ろう

都会はもちろん、農山漁村でも
もはや安全地帯がなくなつたとい
われるほど、交通事故による犠牲
がふえております。

とくに、子どもの交通事故は毎
年ふえるばかり、四月から新入学
児童の通学も始まりましたが、か
わいらしい一年生が交通事故でけ
がをしたり、命を失ったりするの
は、なんとしても防がねばなりま
せん。



八つかかってみました。

①口でやかましく言うより実際
に道路に出て、手をあげていっし
よに横断歩道を渡ってみたり曲り
かどでは左右を見て曲ることを教
える。実地教育が最上の方法とい
うこと。

②事故防止の方法を、子どもの
習慣にまでもっていく。反復して
教えること。

③信号機のある横断歩道でも事
故があり得ること、踏み切りで、
警報器が鳴っていても事故がある
こと、バスの乗り降りの注意など
重点的に、特別な教育を実地に
教えること。

④小学生の場合、忘れものをと
りに帰宅途中の事故が多いことは
子どもが忘れものに心をうばわれ
ていることから起ります。子ども
を学校や遠足へ出す場合は、念を
いれて忘れ物がないように点検し
てやること。

⑤幼児を外につれていく場合は
必ず、子どもは家並み側を歩かせ
幼児の手をしっかり母親の方から
握ってやること。スカートなどに

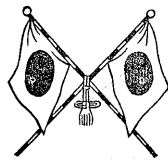
つかまらせて歩いていては母親があ
りますが、事故のもと。

⑥子どもの事故は土曜日に多い
あそびに気をとられたり、あそび
日曜日という気のゆるみが原因だ
つたりする。土曜日の午後は赤信
号と心得ること。

⑦自分の子どもだけでなく、よ
その子どもでも危いと思つたら、
すぐひとこと注意をしてやること
⑧学校への行き帰りは、できる
だけ上級生をまじえた、グループ
行動をとること。

祝祭日には

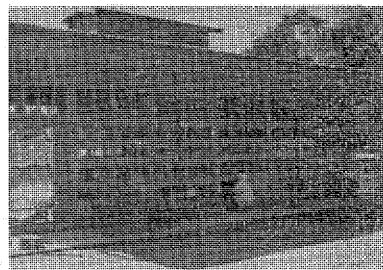
戸毎に国旗を



- 4月 29日
天皇誕生日
- 5月 3日
憲法記念日
- 5月 5日
子どもの日

竜門小給食センターと 中野小教室が完成

かねて建設中であつた竜門小学
校の給食センター(工費一〇三万
円)と中野小学校の普通教室二、
理科教室一(工費二八七万円ほか
地元の奉仕作業)が完成し、先日
落成式がにぎやかに行なわれま
した。



竜門小学校に建てられた給食センター

これで町内の全小中学校の完全
給食がスムーズに行なわれること
になり、児童や生徒の体位は一段
と向上することが期待されます。
また、かねてから教室が足りな
くて困っていた中野小の生徒も大
変喜び、勉強にもせいが出るこ
とでしょう。

護国神社に国旗

護国神社に、さきごろから毎日
国旗がへんぼんとひるがえってい
ます。

だれが掲げてくださるのだらう
と調べてみたところ、旗は南国交
通社長上野喜左エ門氏が、さをは
後藤工業の後藤親社長が、掲揚台
は東塩入の青山茂雄さんがそれぞ
れ寄贈され、朝夕のあげおろしは
新富町の林敏克さんが毎日やって
くださるとのこと、以上諸氏の
寄附な厚意には、みな感心してい
ます。



中野小学校の新校舎